

○「移住受入方針あり、プラン作成も」

(京都府宮津市 日ヶ谷地区連絡会議)(平成30年度第2回)

担い手への
農地利用の
集積・集約化遊休農地の
発生防止・
解消新規参入の
促進その他
(農業委員会の
体制強化等)

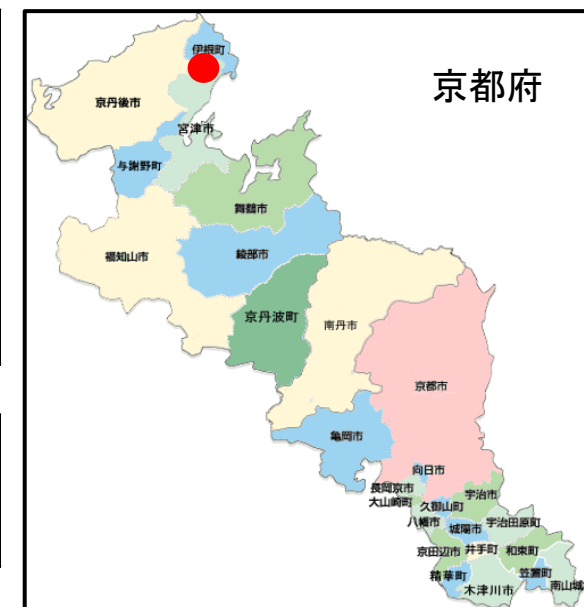
1 活動の日時や時期、場所等

- 日時(時期): 平成30年7月11日(水) 19:00～21:30
- 場 所: 宮津市日ヶ谷集会所
- 出席者: 石田委員、荻野推進委員、地元5人
※委員2人、委員以外5人
- 報告者: 増田 英雄 農業会議現地推進役

写真・図面
(地区連の写真又は
必要に応じた活動の写真や図面)

2 地区の特徴、状況、課題

- 若者が農業に興味をもっておらず、協力が得られない。高齢化に伴い、共同作業の負担が大きくなっている
- 水路整備は、耕作者以外の支援を受けている
- 栽培は、自家用・縁故米、加工味噌材料、チソ栽培(1人)、ハウス採種(1人)



3 課題解決に向けた活動(農地利用の最適化推進の取組と工夫)

- 今回の話合いで協議したのは、日ヶ谷の行動目標。遊休農地対策部会は遊休農地解消を、移住部会は移住受入を、里力再生部会は地域イベントによる活性化(外部への発信)等を意見交換。
 - 今後の地域づくりは「移住受入」が基本になるのではないかと(旧小学校を活用した、移住お試し期間の実施を検討)
 - 次回は、どんな移住受入地区にするのか(年代、魅力、職業、地域との関わり)、日ヶ谷の活性化を協議予定
 - これまでは、現状に対する悲観的な意見、諦めの意見に終始していたが、今回から具体的な話合に変わってきた
- 関係機関が連携し、認識を一致したうえで、課題整理をしながら系統的に進めることができれば地域が動くのでは
- ※意見交換では、移住対策のほか、綺麗な水を活用する企業誘致や特産物検討等の話もでた

4 活動結果

- 情報・意見交換 2.5 時間
- 担い手への集積 a 増加
- 遊休農地面積 a 解消
- 新規就農者 人 支援